

ISO 認証機関

ASR エイエスアール 通信

<https://www.armsr.co.jp/>

2023May
VOL.42



contents

- エイエスアールのお客様紹介 p.2-3
株式会社現代建築研究所様
- マネジメントシステムの運営管理に活用できる p.4-5
手法・ツール (その7)
FMEAとFTA
- ISO/IEC27001規格改訂について p.6
- 企業向けISO関連教育サービス p.7
- 組織様向け情報 p.8

株式会社現代建築研究所様

(東京都新宿区)

今回は、株式会社現代建築研究所様をご紹介致します。

株式会社現代建築研究所様は、創業74年目の国内でも草分け的存在の建築設計事務所です。

ジャンルを限定せず様々な建築物と向き合い、柔軟な発想と高い技術で高齢者施設、ホテル、オフィスビル、養殖場施設など多岐にわたる案件の設計を手掛けておられます。

品質管理室のメンバーの皆様にお話を伺いました。



設計部 プロジェクト・マネージャー
佐久間 雄一郎 様(左奥)
設計部 CRM
橋本 圭 様(左手前)

設計部 品質管理室室長/シニアマネージャー
本間 聡 様(右奥)
設計部 プロジェクト・マネージャー兼CRM
町田 貴広 様(右手前)

ーまずは御社の概要についてお話いただけますか。

弊社は1949年に設立され、創業74年目の意匠専門の建築設計事務所となります。戦後に創業された設計事務所の中でも草分け的な存在に当たるのではないかと思います。

創立者である初代社長の北代禮一郎は、丹下健三さんの後を継いで日本建築家協会の会長を務め、設計事務所制度の整備に大きな貢献をしました。1998年に現在の社長の飯田が引き継いで25年になります。



(事例) 横浜日野病院

弊社の特徴は、分野に特化せず、創業以来、いろいろな設計業務を経験しているところです。近年ではヘルスケア施設や、病院、高齢者施設などが多くなってきていますが、商業ビルやホテル、事務所ビル、学生寮、物流倉庫、変わったところでは、サーモンの陸上養殖施設なども手掛けています。

ーかなり幅広いジャンルで多くの案件を手がけていらっしゃるんですね。

はい、弊社は社員30名ほどなのですが、プロジェクトごとにチーム制をとり、プロジェクト・マネージャーのもとで一人一人がエキスパートとして仕事を進めています。

あらゆる案件に柔軟に対応していくのが弊社の特徴でもありますので時代の変化などにも強いと考えています。

多種多様なクライアント様とのお付き合いがあるの

で、そのネットワークを介して仕事を受注することも多く、現在の仕事が未来の仕事につながっていると感じます。

ーISO関連のお話を伺いたと思います。そもそもISOの取得に至った経緯はどのようなことだったのでしょうか。

ISO9001の取得が2000年なのですが、当時旧建設省（現国土交通省）が、ISO9001の認証を公共工事の入札参加条件にするという方針を出しました。この時は施工業者だけが対象だったのですが、ゆくゆくは設計関連にも条件が加わるだろうと考えたのと、弊社のクライアントにあたる一般企業の認証取得が一気に増加している時期でもありましたので、我々もISO9001を取得した方が民間の受注の際に信頼いただけるのではと取得することにしました。中堅の設計事務所としては取得への取り組みはかなり早いほうだったのではないかと思います。



(事例) ラ・ジェント・ホテル京都二条

当時、色々な講習会に出て、コンサルタントは入れずにISO取得チームでまとめたので、非常に大変でした。

設計業務に関する社内のシステムとしては自信を持っていたのですが、それを、当時もっと製造業をメインに考えられていたISOに落とし込むのが特に大変でした。

—実際に運用されていていかがですか。

少し抽象的になるのですが、設計事務所にとって製品とは何かというのが命題になっています。我々は設計をして、成果物として設計図書があります。実際に建物を造るのは施工会社で、私たちはそれを監理して設計図通りにできているかどうかを確認するのが業務です。我々にとって、製品とは何だろうというのはいつも考えさせられるところです。

ISOの規格に書かれている内容に設計事務所の業務を当てはめようとすると、そもそもそのプロセスに乖離があって、解釈の仕方を柔軟に変えていかないと、難しいだろうと感じています。

—ASRの審査を受けていただいて、どのような印象をお持ちでしょうか。

今審査をしていただいている審査員が設計事務所の業務内容ややり方に対してよく理解をされており、柔軟に対応していただけているのが非常にありがたく感じています。より良い方向になるよう寄り添っていただけている印象です。

—今後ISOを継続していく上で、課題や改善点と考えているところはありますか。

ISOのマニュアルというのがどうしても抽象的な内容であったり、言い方は悪いですがどれも杓子定規と感じる部分があって、もっと臨機応変に考えていきたいと思うところがあります。今後は、より業務にマッチングする形にマニュアルを少しずつ改訂して、さらに運用しやすい内容にしていきたいと思っています。

一緒に働いているスタッフにも、日々の業務への関連付けがわかりやすい内容にして、意識づけができたと思っています。

以前の品質管理室のメンバーは、ベテランでどちらかというと管理サイドの人たちだったのですが、3年前に一新しました。ここにいる3人はプロジェクト・マネージャーや、カスタマーリレーションマネージャーなど、実務でバリバリやっている人たちですが、ISOを活性化させようという趣旨で加わってもらいました。社長の飯田の方針もあり、設計品質を担保するためにも、今後もISOには積極的に取り組んで運営していきたいと思っています。

—御社での社外活動や社会貢献についての取り組みは何かございますか。

SDGsへの取り組みを積極的に進めています。

SDGsの目標の中に、「11 住み続けられるまちづくりを（持続可能な都市）」と「14 海の豊かさを守ろう（海洋資源）」がありますが、先ほど



(事例) 富士桂川ファクトリー

もご紹介した陸上養殖施設の設計を手がけており、完成した2件の実績と現在進行中の案件が2件あります。

これまでは海面養殖が主でしたが陸上養殖は水源の確保ができれば、基本的にはどこでも養殖ができるという画期的な技術です。最近完成した施設は海水ではなく、淡水で500トンのサーモンを育てる施設です。井戸水を循環濾過させ、濾過して不要になった一部飼育水を排水するので、工場のような生産施設排水とは異なり、環境への影響がない施設になっています。今後、自然に頼った魚介類は頭打ちになっていくと言われていて、食糧危機に対抗する手段としてとして非常に注目されています。

今後もこの需要が続く限り、陸上養殖施設の設計は増えていくのではないかと思います。われわれも設計のノウハウを蓄積して積極的に取り組んでいきたいと考えています。

さらに、「15 陸の豊かさを守ろう(陸上資源)」という目標をクリアする為に、脱炭素を狙った木造建築の採用を積極的に行っていく活動をしています。木造は建築時に炭素排出が少ないという点と、木はそもそもその炭素を固定し、貯蔵するという特性を持っていますので脱炭素に有効なのが良い点です。



(事例) ファミリーホスピス京都北山

ただ一方で、木造は耐火建築物にする点でハードルが高く、大規模建築には不向きだとされてきたのです

が、最近では新たな工法を採用することによってクリアできるようになってきました。弊社の事例でいうと、京都に木造の4階建て耐火建築のホスピスがあります。この物件は木造建築の促進をしているカナダ林産業審議会(COFI)の、「第4回中層木造建築デザインアワード」で入賞することもでき、木造建築の促進が社会的に評価されてきていることに貢献できているのではないかと思います。

社内的な活動としては、プロジェクトごとのチームという特性上、どうしてもプロジェクトチーム以外の交流が少ないという問題点もあったりします。

世代や状況はそれぞれ違う状態の社員同士の交流という観点で、イベントを開催して、コミュニケーションを取り、ネットワークを広げていこうと活動しています。

SDGsへの取り組みや社内のコミュニケーションイベントなど様々な活動に力を入れており、結果として本業へのモチベーションを高めさらなる成長を目指されているのが伝わりました。

お忙しい中お時間をいただきありがとうございました。

当コーナーでは、弊社の登録企業様のISO活動や事業をご紹介します。事業への思いや取組みなどについて、PRしてみたい企業様は、是非、下記宛にご連絡ください。

ASR通信 事務局 E-mail: otoiwase@armsr.co.jp

マネジメントシステムの運営管理に活用できる手法・ツール

その7

～ FMEA と FTA ～

1. はじめに

今回は、マネジメントシステムのプロセスにおいて、リスクへの対応（未然防止）に活用できるFMEA（Failure Modes and Effects Analysis：故障モード・影響解析）と設計の信頼性向上のための手法であるFTA（Fault Tree Analysis：故障の木解析）について解説します。

2. FMEA

(1) FMEAの定義と目的

FMEAは、下位アイテムに生じ得る故障モード及びフォールト（故障状態）の調査、並びに様々な分割単位に及ぼすそれらの影響を含む定性的な解析方法のことです。

FMEAは、製品設計、工程設計などの設計に起因する課題を、機能や作動状態に着目して検討し、故障モードや不良モードの概念により事前に明らかにするとともに、その発生頻度、影響度、検出難易度などの評価項目について、使用する立場から重要度を考慮し、優先順位を明確にして解決すべき課題を提示する技法です。たとえば、設計の故障モード分析、工程のリスク分析に使用されます。

FMEAの目的は、次のとおりです。

- ・問題点（品質、コスト、環境、安全、情報セキュリティなど）の早期摘出・未然防止
- ・トップ事象モードにつながる要因の抽出
- ・重点指向による開発期間の短縮
- ・信頼性試験・評価の効率化
- ・設計検証・デザインレビューへの情報提供
- ・評価技術や情報の技術標準としての蓄積

(2) FMEAの手順

FMEAの手順を次に示します。

[手順1：FMEA実施の準備]

- 1) システム、サブシステムの構造、機能を把握し、信頼性ブロック図を作成する（図1参照）。

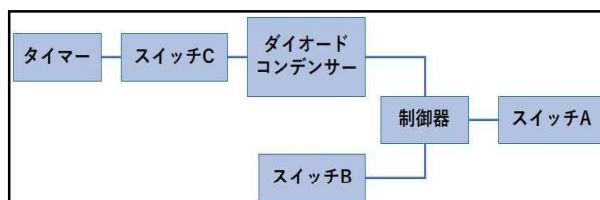


図1 信頼性ブロック図の例

2) 信頼性要求の確認

使用環境条件の十分な把握を行うため、使用頻度、ストレスの種類・レベルを考える。

3) FMEAの解析レベルの決定

FMEAの解析対象は、システムか、サブシステムか、部品かを決める。

4) FMEAワークシートの準備（表1参照）

名称 (Assy・Sub- Assy部品)	機能	故障モード	故障モードの 上位・他シス テムへの影響	故障モードの重要度				故障の原因	諸因是正処置	担当部署
				発生 頻度	影響 度	検知難 易度	重要度			
タイマー	加熱時間の 調整	スイッチが入らない	過熱できない	2	2	3	12	接触不良	接点の改良	設計課
		スイッチが切れない	過熱される	2	2	3	12	タイマー機能不良	限界試験の実施	
ダイオード・コンデンサー	電流量の調整	オープン	過熱量調整機能喪失	2	2	5	20	部品劣化による機能喪失	信頼度の高い部品の選定	

表1 FMEAのワークシート活用例
（オープントースターの一部）

[手順2：FMEA対策部位の選定]

解析するシステム、サブシステム、部品などの名称を列挙する。

[手順3：要求される機能の記述]

解析対象に要求される機能を明確にして整理し、列挙する。いつ、どこから、どんな入力を受けて、どのような原理で変換して、何に、どのような出力をだすかを明確にする。

[手順4：故障モードの記述]

対象部位に予想される不具合事象すべてを列挙する場合には、次の流れで考える。

- ① 情報（図面、資料）の受領
- ② 機能・作動状態の理解
- ③ 各種ストレスの想定
- ④ 劣化プロセス（故障メカニズム理解）の理解
- ⑤ 故障状態の評価
- ⑥ 問題提起

故障モードを発想するときには、過去のクレーム情報が貴重な情報源となるのでこれを活用する。基本設計段階では、システムや機能の潜在的欠陥を検討する。故障モードとは機能喪失状態であり、例えば、動作せず、停止せず、出力せず、異常出力、誤動作がある。詳細設計段階では、詳細設計したものが所定の機能を果たし得るか否かの検討することであり、例えば、変形、亀裂、破損、表面の傷、表面のあれ、ガタ、脱落、固着、焼損、異物混入、漏れ、浸蝕、解放、短絡、ドリフトがある。

なお、故障モードを抽出する際には、次の事項を考慮する。

- ・対象製品の理解
- ・・・製品仕様の明確化（環境・使用条件）

- ・故障モードの収集
 - ・・・故障事例の収集、ブレインストーミングによる抽出、故障メカニズムの追求
- ・FMEA手法の理解
 - ・・・故障モード抽出の機器レベルの検討、信頼性ブロック図

[手順5：故障の影響の厳しさの記述と重要度評価]

- 1) 故障の影響の厳しさの記述
故障モードが発生した場合の上位システム、他システムへの影響の厳しさを明確にする。
- 2) 故障の重要度の評価
評価要素の例には次の項目がある。
 - ・故障モードの厳しさ (Severity)
発生した場合の影響の厳しさはどの程度かを明確にする。
 - ・故障モードの発生頻度 (Occurrence)
問題がどの程度の頻度で発生しているかを明確にする。
 - ・故障の検知難易度 (Detection)
使用の段階に至るまでのどの段階で未然に故障モードが発見されるかを明確にする。

これらのランク分けには、10段階、5段階、4段階などがある。総合評価を次式で決める。

$$RPN (Risk Priority Number) = S \times O \times D$$

[手順6：故障原因の記述]

故障モードを引き起こすと考えられる全ての故障原因を列挙する。

[手順7：対策事項・対策方法の記述]

重要度の高い故障モードに対して、その故障モードを除去あるいは影響を緩和するために必要な対策事項・対策方法を記述する。

[手順8：その他の必要事項（対策実施担当部署、対策実施期限等）の記述]

3. FTA

(1) FTAの定義と目的

FTAは、故障の木を用いた演繹的解析手法であり、あらかじめ定義した望ましくない事象を引き起こす、下位アイテムのフォールト（故障状況）、外部事象、又はこれらの組合せを表す論理図を用います。故障の木は、論理ゲート記号（典型的な論理ゲート：ORゲート（論理和）、ANDゲート（論理積））を用いて樹形図に展開し、これをFT図と言います（図2参照）。

FTAは、信頼性又は安全性上、その発生が好ましくない事象に対して、論理ゲートを用いて、その発生の経緯を遡って逐次下位レベルに展開し、発生経路及び発生原因、発生確率

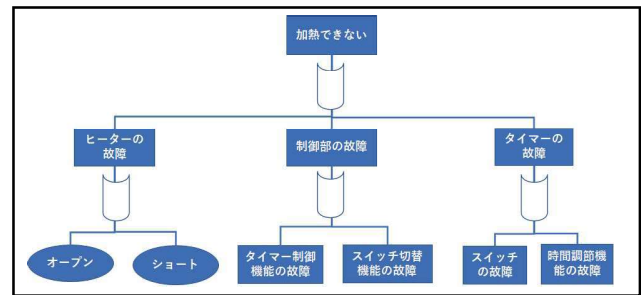


図2 オープントースター（一部）のFT図

を解析することによってトップ事象が発生するメカニズムを解明する技法です。

FTAの目的は、次のとおりです。

- ・絶対に生じてはいけない事象への重点指向
“Vital few, trivial many”、本質的なものはわずかであり、些細なものは多数あるという考え方
- ・基本事象の位置づけ（トップ事象とモードと故障モードとの関連）の明確化
 - ・多重故障への未然防止
 - ・ヒューマンファクターのトラブル解析
ハードウェアだけでなく、ソフトウェアおよび人間操作が関与するトラブル解析

(2) FTAの手順

FTAの手順を次に示します。

[手順1：チーム編成及びFTA実施に必要な資料の入手]

[手順2：解析の対象となるシステムの編成・機能・作動の確認]

[手順3：システムのトップ事象の選定]

[手順4：手順3で定められた事象（故障）につながる1次要因（サブ・システムレベル）の列挙及びそれらに関連する外部要因の検討]

[手順5：手順4で得られた要因と事象との因果関係の論理記号による結びつけ]

[手順6：FT図の作成]

手順4・5を繰り返して、構成品レベル又は部品レベルへと展開し、もうこれ以上分解できないレベルまで続け、FT図を描く。

[手順7：各要因、条件の発生確率の故障の木の各部への割り付け]

[手順8：論理記号にしたがったトップ事象の発生確率の計算]

[手順9：各要因の上位レベルの影響のきびしさ評価及び効果的な改善対策の検討]

次回は、改善活動でよく使われている“問題解決型QCストーリー”について解説します。

福丸 典芳 氏

(有)福丸マネジメントテクノ代表取締役

著者紹介

日本規格協会品質マネジメントシステム国内委員会の委員を務め、ISO 9001の規格作成にも携わる。

コンサルティング業務、講演会・研修会の実施、書籍の執筆など多方面で活躍。

近著に「ISO統合マネジメントシステムの構築と内部監査の実践」がある。

ISO/IEC27001規格改訂について

1.2022年版への移行について

情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) の適用規格である ISO/IEC27001 が改訂され、2022 年 10 月 25 日に ISO/IEC27001:2022 が発行されました。

これに伴い、すでに認証を取得している組織様については、従来の ISO/IEC27001:2013 から ISO/IEC27001:2022 への移行が必要となります (JIS 版の発行は 2023 年夏頃を予定)。

ISO のマネジメントシステム規格は変化する社会の要請に対応して随時見直しが行われています。この規格は国際標準として策定されておりますので、組織様におかれましても、新しい要求事項の下で運用していただく必要があります。

2.ISO/IEC27001 移行スケジュール

移行期間は ISO/IEC27001:2022 発行月の末日である 2022 年 10 月 31 日より三年間となります。

また、現行版による初回審査及び再認証審査の開始期限は 2024 年 4 月 30 日 (改訂版発行月の末日から 18 ヶ月) となりました。



移行期間について

(ISMS-ACのHPより抜粋)

弊社の対応スケジュールを含め、最新の情報はホームページにて随時更新してまいりますのでご確認ください。

3. 改訂の概要

ISO/IEC 27001:2022 への改訂において、2013 年版からの本文の追加・変更は少なく、要求事項にも大きな追加・変更はありません。

今回の改訂では、2022 年 2 月に改訂された ISO/IEC27002:2022 に併せて附属書 A が全面的に改訂されています。新規管理策も 11 項目追加されていますので、見直しが必要になります。

4 本文の改訂について

今回の改訂において、本文についての追加・変更の内容は以下の通りです。

・ ISO/IEC27001:2022 の構造とテキストに、最新版の規

格として共通の形式が反映されました。

・ ISO31000 の改訂に対応して、本規格で参照している ISO31000 の箇条番号が変更されました (参照する内容についての変更はありません)。

改訂のあった項番、及び要求事項の追加・変更の有無は下記の表を参照してください (記載されていない箇条については改訂はありません)。

*は 2022 年版で新しく追加された項番です。

(ISO/IEC27001:2022)		要求事項の追加・変更
4. 組織の状況	4.1 組織及びその状況の理解	無
	4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解	無
	4.4 情報セキュリティマネジメントシステム	無
5. リーダーシップ	5.1 リーダーシップ及びコミットメント	無
	5.3 組織の役割、責任及び権限	無
	6.1.3 情報セキュリティリスク対応	無
	6.2 情報セキュリティ目的及びそれを達成するための計画策定	有
	*6.3 変更の計画策定	有
	7.4 コミュニケーション	(有)
8. 運用	8.1 運用の計画及び管理	有
9. パフォーマンス評価	9.1 監視、測定、分析及び評価	無
	*9.2.1 一般	無
	*9.2.2 内部監査プログラム	無
	*9.3.1 一般	無
	*9.3.2 マネジメントレビューへのインプット	有
10. 改善	*9.3.3 マネジメントレビューの結果	無
	*10.1 継続的改善	無
	*10.2 不適合及び是正処置	無

各項番の改定の有無について

5 附属書 A 管理策の変更点

附属書 A 管理策は、ISO/IEC27002:2022 の箇条 5 ～ 箇条 8 に規定したものがそのまま取り入れられており、両者の整合が保たれています。

2013 年版からの変更点として、管理策体系の簡素化のため、その主な側面に基づき 4 群にまとめられました (4 つのカテゴリ : ①組織的管理策・②人的管理策・③物理的管理策・④技術的管理策)。

また、ISO/IEC27002:2022 における管理目的の扱いが変更されたことに伴って、管理目的への言及が削除されました。

運用上大きな変更はないものの、管理策の見直しは必要です。移行審査のスケジュールを考慮し、早めに準備を進めることをお勧めします。

なお、ASR では ISO/IEC27001:2022 への移行をスムーズに行うための手引きをご用意いたします。登録企業のお客様には別途ご案内をお送りいたしますのでそちらも参考にしてください。

エイエスアール主催

企業様向け ISO 関連教育サービス

決まった時間に講師が解説するセミナーと、自由な時間に自分のペースで学べる学習動画（e-ラーニング）が、自分のスタイルに合わせて選べます。

▶ ISO関連セミナー（2023年5月～2023年8月）

内部監査員養成セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001

ISO 規格要求事項の解釈、内部監査員に必要な基礎知識と技能を実践的な講義と演習で学習します。

1日

品質	東京	5月24日(水)	環境	東京	5月25日(木)
	名古屋	6月21日(水)		名古屋	6月22日(木)
	大阪	7月26日(水)		大阪	7月27日(木)
品質	東京	5月17日(水)	環境	東京	5月18日(木)
	名古屋	6月14日(水)		名古屋	7月13日(木)
	大阪	6月15日(木)		大阪	7月20日(木)
		7月19日(水)			
労働安全	東京	6月28日(月)			
URL	https://www.armsr.co.jp/asr_pc/internalaudit/internalaudit.html				

1日/2日

環境側面解説セミナー

1日

規格要求事項について、各箇条の意図や要求事項を満たすためにすべきことなどを解説。要求事項について理解を深めるためのセミナーです。

日程 6月12日(月)

URL <https://www.armsr.co.jp/mss12.html>

2日

品質 東京 6月7日(水)～8日(木)

ISO 入門セミナー

WEBセミナー

ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

半日

「ISO とは何か」から始まり、マネジメントシステム規格がどのようなものかといった、ISO の基礎を解説するセミナーです。

品質	6月5日(月) 8月7日(月)
環境	6月6日(火) 8月8日(火)
情報	2022年版 7月11日(火) 2013年版 5月16日(火)

URL <https://www.armsr.co.jp/mss11.html>

規格ポイント解説セミナー

WEBセミナー

ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

半日

規格要求事項のポイントについて、半日で解説するセミナーです。規格要求事項を勉強したいがあまり時間が取れない方にお勧めします。

品質	5月22日(月) 7月6日(木)
環境	5月23日(火) 7月7日(金)
情報	2022年版 6月20日(火) 2013年版 7月10日(月)

URL <https://www.armsr.co.jp/mss20.html>

規格要求事項の解説セミナー

ISO9001・ISO14001

1日

規格要求事項について、各箇条の意図や要求事項を満たすためにすべきことなどを解説。要求事項について理解を深めるためのセミナーです。

品質	6月29日(木)
環境	5月30日(火)

URL <https://www.armsr.co.jp/mss21.html>

▶ ISO 学習動画 (e-ラーニング)

新規講座が順次開講し、約30本のコンテンツをご用意しています。ISO 関連講座のほか社員教育プログラムもどうぞご利用ください。

(一例)

講座名	視聴時間
ISO 関連講座	
ISO 入門セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001	1.5時間
規格ポイント解説セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001	2.5時間
内部監査員 養成講座 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001	8時間
環境側面解説セミナー	1.5時間
社員教育プログラム	
情報セキュリティ社員教育プログラム キミツマモルくん	70分
EXCEL講座 (入門・初級)	1.5時間
EXCEL講座 (中級)	45分

URL <https://www.armsr.co.jp/websemi.html>

※視聴時間は、おおよその時間です。規格によって若干異なります。

セミナーや学習動画の詳細と最新情報は、ASR トップページのおранже色のバナー（下図）か URL からご確認ください。
※お申込みはホームページの WEB フォームからお願いいたします。

<https://www.armsr.co.jp/ac/>

セミナー・学習動画(e-ラーニング)に関するお問い合わせはこちら
TEL:03-3666-8624 E-mail:seminar@armsr.co.jp



いつでもどこでも、パソコンやスマートフォンで、空いてる時間に、
自分のペースで、何度でも繰り返し学習できます。

社員教育プログラム

「キミツマモルくん」シリーズ

日常業務で直面する様々な情報セキュリティ
リスクとその対処方法をストーリー仕立ての
イラスト動画で学ぶことができます。



QMS/EMS
ISMS/OH&SMS

規格ポイント解説セミナー

規格要求事項の用語や意味について、
ポイントを短時間で解説します。



QMS/EMS
ISMS/OH&SMS
ISO 入門セミナー

ISOを初めて学ぶ方に、「ISOとは何か？」から
規格要求事項について概要を解説します。



QMS/EMS/ISMS

内部監査員養成講座

内部監査員として必要な基礎知識、規格要求
事項の概要と監査技術を学べます。



修了証発行

QMS/EMS/ISMS

ISO 基礎講座プログラム **セット**

- ・ISO入門セミナー
- ・規格ポイント解説セミナー
- ・内部監査員養成講座

上記がセットになったパッケージです。
※EMSセットには「環境側面解説セミナー」が付きま

お申込みURL <https://www.armsr.co.jp/websemi.html>

ASR 学習動画

検索



エイエスアールの
スタッフ紹介
常に学ぶ姿勢を大切に



氏 名：佐藤 賢生 (さとう かしお)
所 属：認証部
趣 味：ゲーム、猫と遊ぶ、アニメ

いつもお世話になっております。認証部の佐藤賢生と申します。

2021年4月に入社してちょうど2年がたちました。
私は現在、各部署が効率良く業務を行うことができるよう
社内の仕組みの改善や文書の管理等を行っております。

お客様と直接関わることは多くはないですが、最終的
にお客様の満足に繋がることを意識して業務に取り組ん
でおります。

さて、私事ではございますが大学時代は法学部で法律
について学んでおりました。法律の勉強はあまり得意で
はありませんでしたが、具体的な目標があった方がやる
気が出るタイプのためモチベーションの維持として法律

を活かした資格に挑戦しようと考え、大学3年の時に行政書士の試験に合格することができました。

また、休日はよくゲームをしたり、猫と遊んだりしています。猫は飼い始めてから1年程が経ちますが、おとなしめの性格で何を考えているかわからないことが多いです。ただ、機嫌が良いと寄ってきたり意外に好き嫌いがあるて新しく買ってきたおやつに興味を示さなかったりとよく観察してみると日々新しい発見があります。

業務においても、やるべきことを見失わない為の目標設定と日々新しいことを学ぶ姿勢を忘れず、それらがお客様への貢献につながるよう精一杯努力してまいりますので、今後とも宜しくお願い致します。

発行元：エイエスアール株式会社

本 社：〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町2-7
TEL 03-3666-8757(代) 03-3666-0478(営業部)
名古屋支社：〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-2-5
TEL 052-533-1822
名古屋第二支社：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-3-26
TEL 052-211-7102
大阪支社：〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-5-16
TEL 06-4964-0120



品質・環境・労働安全衛生 情報セキュリティ

★次回発行は2023年7月の予定です。(年4回発行)
皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。

E-mail otoiawase@armsr.co.jp

URL <https://www.armsr.co.jp/>

ASR ISO

検索